

1. セッション名

宇宙の歴史 6—宇宙政策史、宇宙法制史、宇宙科学技術史、宇宙産業史—

2. オーガナイザ氏名、所属

	氏名	所属
代表	渡邊 浩崇	大阪大学 CO デザインセンター
	小笠原 宏	東京理科大学

3. 概要

目的：

日本や世界の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史を振り返ることで、それらの現状や今後を考える場を提供する。

意義：

これまで日本において、日本や世界の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史研究が十分に行われてきたとは言えない。宇宙開発史や宇宙法制史という分野はあったかもしれないが、それらが学術的に継続的に十分研究されてきたとは言えず、宇宙政策史という分野は、2000 年代になってようやく研究されるようになったと言ってよい。現在、これらの宇宙に関する歴史が少しずつ蓄積されつつあるが、今後の日本の宇宙政策や宇宙計画を考えるための準備的考察としては不十分な状況である。そのため、日本の宇宙政策や宇宙計画に関して、まず記録としての歴史、そしてさらに評価としての歴史、これらの研究蓄積が必要と考えられる。

こうした状況を踏まえて、5 年前の第 60 回宇宙科学技術連合講演会（函館）において、「OS-22 宇宙の歴史—宇宙政策史、宇宙法制史、宇宙科学技術史、宇宙産業史—」と題し、講演セッション 3 つ、パネルディスカッション 1 つを企画・開催した。その後も、4 年前の第 61 回（新潟）では「OS-19 宇宙の歴史 2」と題して講演セッション 3 つ、3 年前の第 62 回（久留米）では「OS-43 宇宙の歴史 3」と題して講演セッション 3 つ、2 年前の第 63 回（徳島）では「OS-27 宇宙の歴史 4」と題して講演セッション 3 つを企画・開催してきた。昨年（第 64 回）宇宙科学技術連合講演会（WEB オンライン開催）では、「OS06 宇宙の歴史 5—宇宙政策史、宇宙法制史、宇宙科学技術史、宇宙産業史—」と題し、講演セッション 3 つを企画・開催したところ、聴衆は最大で約 50 人であったが、内容は充実したもので大変有意義に終了することができた。

これらのセッションやパネルディスカッションを通じて、いわゆる文系の研究者や実務者には宇宙科学技術や宇宙産業の歴史について、一方、いわゆる理系の研究者や学生には宇宙政策や宇宙法の歴史について、理解を深めてもらうことができたと考えている。また、以上のような目的や意義を持つ本オーガ

ナイズド・セッションの宇宙科学技術連合講演会全体における位置付けが、確かなものになっていると考えている。

また、昨年(2020)の第 64 回宇宙科学技術連合講演会 (WEB オンライン開催) の準備と並行して、これまでの「宇宙の歴史」シリーズで研究発表されてきた論文を集めて構成し、一冊の書籍として刊行する準備を、オーガナイザの渡邊を中心としてこれまでの発表者が協力して進めてきた。その成果は、『宇宙の研究開発利用の歴史—政策・法律・科学技術・産業—』(仮) と題して、大阪大学出版会から 2021 年秋に刊行される予定である。

したがって今回は、これまでの続編として「宇宙の歴史 6」と題し、この書籍の各章の内容を各執筆者に発表してもらう場として、ほぼ同規模のオーガナイズド・セッションを企画することで、宇宙の歴史に関する研究蓄積とともに情報交換・提供に貢献したいと考えている。

内容：

5 年前の「宇宙の歴史」では、総論や通史に関する講演が多く、パネルディスカッションのテーマを「日本の宇宙政策・宇宙計画の歴史と展望」とした。4 年前の「宇宙の歴史 2」では、個別の事例(計画、科学技術、組織等)に関する講演を増やし、一つの講演セッションのテーマを「各国の有人宇宙計画の歴史」とした。3 年前の「宇宙の歴史 3」では、総論や通史、個別の事例、さまざまなテーマや内容を扱いつつ、共通のテーマとして「宇宙探査(宇宙科学探査、有人宇宙活動)の歴史と展望」を設定、2 年前の「宇宙の歴史 4」では、共通のテーマとして「1980 年代の日本の宇宙政策・宇宙計画」を設定、昨年(2020)の「宇宙の歴史 5」では、共通のテーマとして「冷戦終結と 1990 年代の日本の宇宙政策・宇宙計画」を設定して、総論や通史から一歩踏み込んで分析や検証を深めてきた。

今回の「宇宙の歴史 6」では、これら 5 年前から昨年までの「宇宙の歴史」シリーズで研究発表してきた内容を、各発表者が書籍の原稿としてまとめる作業を進めてきたので、その内容の要約とともに、その「歴史の教訓」としての現在や今後への提案や示唆等を発表してもらう。すなわち、これまで研究発表するために研究調査分析を行い、また研究発表するためにさらに研究調査分析を行って継続・発展させてきたものを、6 年近くの研究活動の総決算として発表してもらう。まさに、宇宙の歴史に関する研究蓄積を共有する場になると考えている。

セッションとしては、日本の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史、米国・ロシア・欧州の宇宙政策や宇宙計画に関する歴史、日本の民間企業の宇宙事業に関する歴史の計 3 つのセッションで講演を行ってもらう予定である。